

取材のご案内

報道関係各位

小中学生が自らの学校環境を改善するワークショップを実施 ～次世代へのインクルーシブ教育を実践～

2023年9月28日～12月12日 横浜国立大学附属横浜小学校、横浜中学校

日本財団（東京都港区、会長 笹川陽平）は、障害の有無や年齢にかかわらず全ての人々が、豊かに暮らせる社会を目指した活動を幅広く行っています。この一環として、横浜国立大学（神奈川県横浜市保土ヶ谷区、学長 梅原出）を通じ、インクルーシブ教育実践モデル(※)構築に取り組んでおり、この度9月28日より同大学附属学校の小・中学生による、自らが通う学校で心身のバリアフリーを実現するためのワークショップを計7回にわたり実施します。

このワークショップでは「学校の不便なところを見つける」「どんな空間の学校が望ましいか」などをテーマに小学生が3回、中学生が4回にわたって、自分たちの学校の現状を分析。その後、障害を含む何らかの理由により配慮が必要な児童・生徒も一緒に学ぶためにはどうしたらよいか、学校のバリアフリーに関する提案を行います。同大学附属学校では、2024年度以降、合理的配慮が必要な児童・生徒の入学に際し、誰もが過ごしやすい学校について子どもたちの提案に基づく改修工事を実施する予定です。

※インクルーシブ教育実践モデルでは、実際の教育現場において子どもたちが障害などを理由に分離されることなく、個々の特性に配慮された空間の中で等しく共に学ぶ環境づくりを目指しています。

ご取材を頂ける場合には、以下の URL 又は二次元バーコードよりお申込みをお願い致します。

<https://forms.gle/RTwP4JHQKgUyEt126>

尚、当日は参加する生徒への個別インタビューも可能です。



<お問い合わせについて>

〒107-8404 東京都港区赤坂 1-2-2 日本財団ビル

日本財団 経営企画広報部 広報担当：勢川(070-3545-7815 / pr@ps.nippon-foundation.or.jp)

公益事業部 国内事業開発チーム 事業担当：中野(070-3892-6743)

【附属横浜小学校ワークショップ(予定)】

開催場所：横浜国立大学教育学部附属横浜小学校体育館(神奈川県横浜市中区立野 64)

実施日時	申込締切	内容
第1回 9/28 (木) 14:45~15:30	9/27 (水) 17:00	<p><趣旨：学校の不便なところを知ろう・見つけよう></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事前アンケートの共有（学校の不便なところ、変えてほしいところ） ・ インタビュー動画視聴（障害当事者へのインタビュー動画） ・ 協議「学校の変えたいところ」 ・ 意見の交換・集約
第2回 10/19 (木) 14:45~15:30	10/18 (水) 17:00	<p><趣旨：どんな学校にしたいか考えよう></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1回目の内容をもとに、「こんな部屋・空間・場所になってほしい」を考える ・ 意見の交換・集約 ・ タイトルの検討「〇〇な学校」 ・ 発表準備・練習
第3回 10/26 (木) 14:45~15:30	10/25 (水) 17:00	<p><趣旨：将来の学校について考える></p> <p>発表</p>

【附属横浜中学校ワークショップ(予定)】

開催場所：横浜国立大学教育学部附属横浜中学校武道場(神奈川県横浜市南区大岡 2-31-3)

実施日時	申込締切	内容
第1回 10/25 (水) 16:00~17:00	10/24 (火) 17:00	<p><趣旨：学校の不便なところを知ろう・見つけよう></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アンケートの共有（学校の不便なところ、変えてほしいところ） ・ インタビュー動画視聴（障害当事者へのインタビュー動画）※ ・ 協議「学校の変えたいところ」 ・ 意見の交換・集約
第2回 10/31 (火) 16:00~17:00	10/30 (月) 17:00	<p><趣旨：学校をどんな空間にしたいか考えよう></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1回目の校内探察の気づきについて意見の交換・集約をする ・ 1回目の内容をもとに、「こんな部屋・空間・場所になってほしい」を考える ・ 意見の交換・集約

<p>第3回 11/10 (金) 14:00~15:00</p>	<p>11/9 (木) 17:00</p>	<p><趣旨：将来の学校について考える> ・ 2回目の内容をもとに、施設改修のコンセプトとなるタイトルを検討する。(タイトル：「〇〇な学校」) ・ 発表準備・練習</p>
<p>第4回 12/12 (火) 14:00~15:00</p>	<p>12/11 (月) 17:00</p>	<p><趣旨：将来の学校について考える> 発表</p>

<ご参考>

学校の現状と共生社会の実現に向けたインクルーシブ教育の重要性

教育現場では、車いす等を利用する児童・生徒のための補助器具や設備の不足や、医療的ケアが必要な場合に十分なサポート体制を取ることが困難であるために、通常学級に通いたい場合でも特別支援学校への進路変更を余儀なくされるケースが散見されます。それぞれの特性や背景等に違いがあっても、互いを尊重し折り合いをつけながら共に生きていく力を備えた人材の育成が、「誰もが生きやすい社会」の実現に向けた一歩であり、インクルーシブ教育はそのような社会の実現にむけた取り組みです。

なお、日本は2022年9月には国連より、障害児を分離した特別支援教育を中止し、通常学級への就学を認めるよう勧告が出されています。

次期学習指導要領など国の教育方針へのインクルーシブ教育の理念反映を目指して

日本財団は、次期学習指導要領改訂においてインクルーシブ教育の推進を一層反映させることを目標としており、その第一歩として、同大学での取り組みを横浜市の子立小中学校に普及させるべく、今後も教育機関・行政と連携を図っていきます。本ワークショップはその一例であり、今後も同大学における、インクルーシブ教育推進のための指導員育成カリキュラムや効果検証などの活動を支援していきます。なお、日本財団では、これまでに誰もが快適に使用できる公共トイレや、障害や年齢によって外出を妨げられないための福祉車両の普及支援など、それぞれの個性を尊重し、暮らしていける社会づくりを推進しています。

■日本財団について

痛みも、希望も、未来も、共に。

日本財団は1962年、日本最大規模の財団として創立以来、人種・国境を越えて、子ども・障害者・災害・海洋・人道支援など、幅広い分野の活動をポートレースの売上金からの交付金を財源として推進しています。

<https://www.nippon-foundation.or.jp/>

